

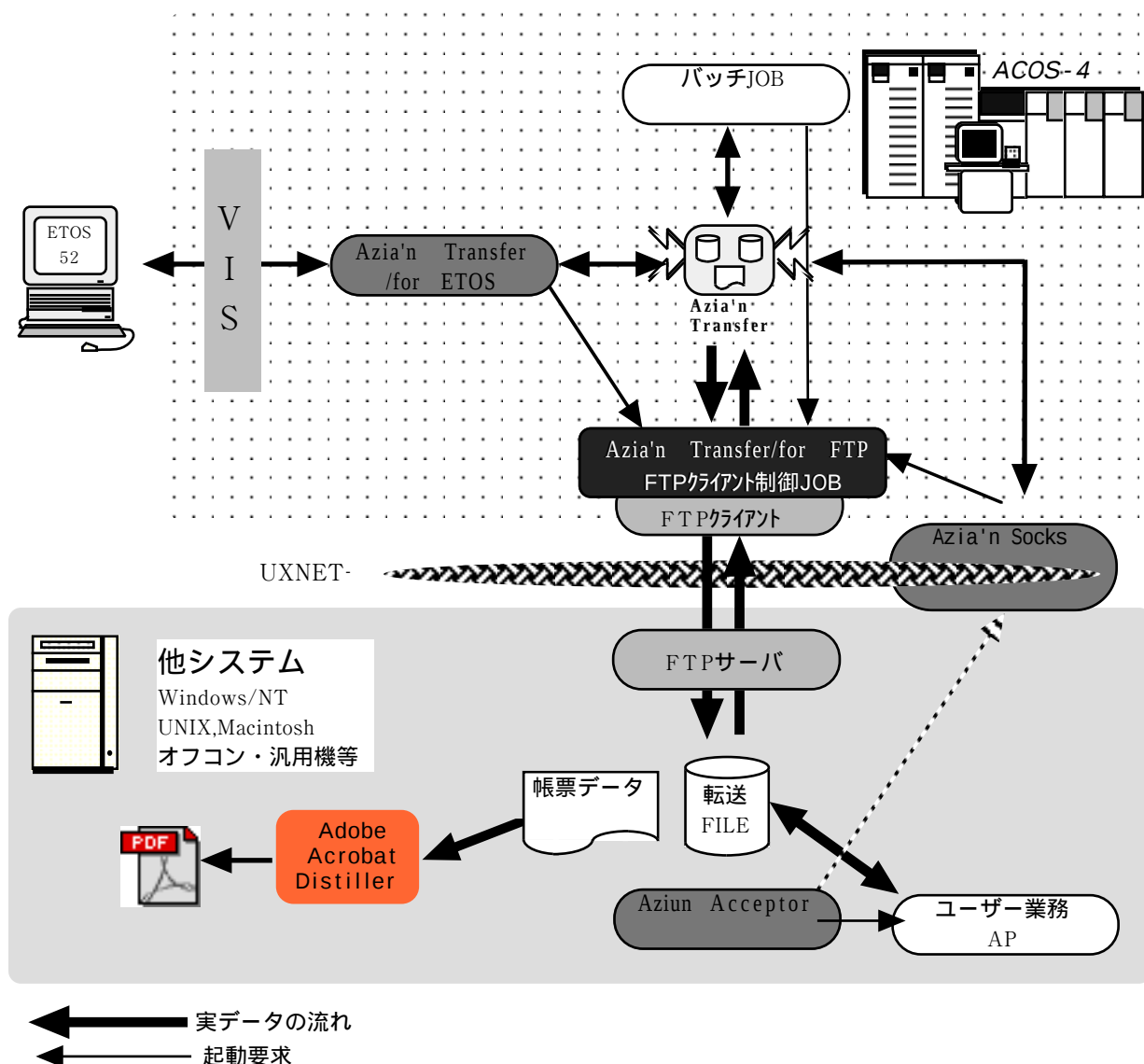
Azia'n Transfer/for FTPのご紹介

「Azia'n Transfer/for FTP」は「Azia'n Transfer」の持つ柔軟な転送機能や転送データ管理機能をそのまま生かしつつ、転送プロトコルとしてFTPを利用するコンポーネントです。

本サブシステムを利用することにより従来のETOS端末に対する場合と同等の、運用性及び耐更性に優れたインターフェースでACOS側FTPクライアントによるファイル転送を実現することが可能になります。

それでは以下に本サブシステムの概要と特徴を御紹介いたします。

1. システム構成図



2. 各種機能と特徴のご紹介

- a. FTPを利用しているので、高速なデータ転送が実現できます。
- b. TCP/IPプロトコルでACOSと接続可能で、FTPサーバーを実装している全てのシステムに対してACOS側起動でFTPによるファイル転送が可能です。
- c. ACOS側のVISが立ち上がっていなくても、バッチJOBからの要求による転送が可能です。
- d. 最大レコード長8192バイトの可変長転送が可能で、基本的にはASCIIテキストタイプのデータを扱いますが、バイナリデータ転送やEBCDICデータ転送も可能です。
- e. 端末種に応じた漢字コード変換(JIS ↔ シフトJIS,EUCコード)が可能です。
又、ファイル全体に対してJIS8 ↔ EBCDICのコード変換を行うことも出来ます。
- f. 帳票データのPostScript変換機能も備えていますので、PC側にAdobe社の「Acrobat Distiller」を用意すれば、ホスト側の帳票をFTPで配信した上でPDFファイルに変換することが可能です。
- g. 帳票データをテキスト形式やHTML形式に変換してPC側DISKに受信し、通常のワープロソフトやwwwブラウザで閲覧することも出来ます。
- h. 従来のAzia'n Transferが持つ各種機能(加入者別の端末管理機能,VISによる加入者別やファイル別転送状況検索機能,ユーザーバッチ処理業務とのインターフェース,区切り文字付テキストとの変換機能等)はそのまま利用可能です。
- i. 相手側FTPサーバーとの1セッションを1端末としてAziaに定義することにより、「¥AZFSET」、「¥AZSEND」、「¥AZRECV」といったJCLマクロやVISの画面から、従来の受動送受信端末やプリンタ端末に対する場合と同様に転送要求を発行することが出来ます。(処理実行端末としてFTPサーバー端末を指定するだけで利用出来ます)
- j. 従来型のETOSによる転送システム(Azia'n Transfer/for ETOS)と併用すれば、JCLマクロやVIS画面において処理実行端末を変更するだけで、ETOSによる転送とFTPの二つのプロトコルを使い分けることが出来ます。従って、回線負荷状況に合わせた柔軟な運用を共通の管理体系のもとで行うことが可能です。
- k. 転送要求が発行されるとAzia側でFTPクライアント制御JOBを起動しますが、このJOBのことを利用する際に意識する必要は基本的にありません。
又、このFTPクライアント制御JOBをマルチで走らせることにより複数端末との同時転送が可能です。もし同一端末に対する転送要求が重複した場合はキューイング管理がなされます。又、転送障害時に自動リトライすることも可能です。

- l. ACOS側におけるファイル毎の未転送,転送済といった状態管理機能、ACOS側で集信した後の相手側送信元ファイル削除機能、ACOS側から配信する際の相手側受信ファイル名の動的変更機能等を組み合わせることによりホスト業務と端末側業務間のインターフェースにおけるデータの紛失や2重転送といった事故を未然に防ぐことが可能です。
- m. PCサーバ側に「Aziun Acceptor」を用意すれば、転送終了後にPC側の処理を起動することや、転送したデータをDownload用ホームページの自動生成や処理結果のWebブラウザによる確認も可能です。さらに、PC側で起動した処理が終了ステータスとホスト側転送状態の同期をとることも可能です。

(PC側処理が正常終了した場合のみホスト側を転送完了にする)

又、ファイル転送後に結果を通知する為のレコードを別ファイルに出力する機能があるので、それを利用してNTやUNIX上で動作する他社製の運用管理ツール

(JP1やTremony等)との連携も可能です。

3. 運用イメージ

a. FTPサーバー情報の登録

転送相手となるFTPサーバーの情報をETOS端末と同様に「加入者情報メンテナンス」画面で登録し、その後「送受信端末情報メンテナンス」画面にて端末TYPEを「PFS」(Windows系FTPサーバー)又は「UFS」(UNIX系FTPサーバー)にします。

AZ10AD* 加入者情報 メンテナンス 頁No. 1 97-05-14 23:20:49

0:表示 R:[加入者CD]:読込 1:[頁No]:改頁 W:[加入者CD]:書込 D:削除
F:次ページ位置付け 3:詳細情報 7:操作説明 9:終了

加入者コード: EIGY001
加入者名称: 第一営業部
加入者種別: * (*:共有加入者 T:端末側加入者 H:外部加入者)
チェック区分: N (P:利用者アクセス権 T:端末アクセス権 B:双方 N:チェック無し)
アクセス権ID: (所属対象端末に適用されるアクセス権ID)

●所属送受信端末情報 端末種別既定値→F98

No.	端末ID	S	No.	端末ID	S	No.	端末ID	S	No.	端末ID	S
1	PCL009		2			3	PCL013		4	PCL014	
6	PCL022		7	PCL023		8	PCL024		9	PCL027	
11	PCL029		12	PCL030		13	PCL019		14	PCL020	
16	KOYAMA		17			18			19		

●所属プリンタ端末情報 プリンタ種別既定値→PFR

No.	プリンタID	S	No.	プリンタID	S	No.	プリンタID	S	No.	プリンタID	S
1	RPL005		2	RPL007		3	RPL011		4	RPL012	
6	RPL015		7			8			9		
11			12			13			14		
16			17			18			19		

⇒(共有指定):共有プリンタ

R 入力可 TCP/IP

AZ10AD* 送受信端末情報 メンテナンス 頁No. 1 97-05-02 22:41:18

0:表示 R:[端末ID]:読込 1:[頁No]:改頁 W:[端末ID]:書込 D:削除
F:次ページ位置付け 3:詳細情報 7:操作説明 8:前画面 9:終了

端末ID: KOYAMA
端末状態:
基本所属加入者: EIGY001 第一営業部
端末TYPE: PFS (OS: PTOS, NTOS, AVX-5等 P*: PC98等)
アクセス権ID: (省略時は所属加入者の持つアクセス権IDとみなされる)
媒体確認モード: * (Y:常に確認待ちとする N:常に確認待ちとせず *:ファイル情報に依存)
配信AP識別: A (使用する配信APIDの3桁目)
●制御可能プリンタ (省略すると基本所属加入者に所属するプリンタ群が制御可能)

No.	プリンタID	No.	プリンタID	No.	プリンタID	No.	プリンタID	No.	プリンタID
1		2		3		4		5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	

⇒印:基本所属加入者の管理対象でないプリンタに表示

●受動送受信時の端末操作促進メッセージ表示情報

表示レベル: N (N:送信しない E:障害メッセージのみ送信 A:全て送信)
表示先区分: R (R:要求元又は下記の端末に送信 C:下記の端末のいずれかに送信)
表示先端末①: ②: ③:

R 入力可 TCP/IP

次に上記「送受信端末情報メンテナンス」画面から キーにて「端末情報メンテナンス(拡張情報)」画面を呼び出し、オプション情報欄にFTPサーバーのIPアドレスやログインのユーザ情報を指定します。

AZ10AD* 端末情報 メンテナンス(拡張情報) 97-05-02 22:45:41

0:表示 R:読込 F:次ページ位置付け W:書込 T:操作説明 9:終了

端末ID: KOYAMA
端末状態:
基本所属加入者: EIGY001 第一営業部

属性情報①: 属性情報②: 属性情報③:

加入者宛要求: Y (Y, N) 最大ポート長: 4096 送信ブロック長: 1024
チェックミッドR: チェックミッドS: フェックミッドG: 終了メッセージ区分: * (Y, N, E, *)
開始メッセージ区分: (Y, N, *) 終了時刻制御情報:
開始時刻制御情報: (F, R) 同期CD設定: (Y, N)
FF設定位置: キー情報①: キー情報②:

オプション情報:
OPEN 157.119.136.16
/SG SCHARMD=NO
USER AZIA AZIA

R 入力可 TCP/IP

これでFTPサーバーとの転送準備が整ったことになります。

b. バッチJOBからの転送要求の発行

配信(ホスト→P C)要求の発行例

```
¥AZFSET OUTREQ=Y  
INFILE=(HACYUF.W02 PUBLIC NORMAL=DELETE)  
FLID=HACYUF ATRMID=KOYAMA DSNM=/FTP/RECV/HACYUF.TXT DV=C  
;
```

これは、「¥AZFSET」を使用して配信データの登録と転送要求の発行を同時に行っている例です。当JCLマクロを実行すると自動的にFTPC制御JOBが起動され、PC側の「C:¥FTP¥RECV¥HACHTYF」というファイルに対して、登録したデータ(INFILEの内容)が配信されます。

又この時プラグイン機能を指定すれば、配信データを区切り文字付テキスト形式に変換することも可能です。

集信(ホスト←P C)要求の発行例

```
¥AZRECV WAIT=YES  
FLID=JYUCYUF AKSCD=AZSYSTEM HKSCD=EIGY001  
RTRMID=KOYAMA DSNM=/FTP/SEND/JYUCYUF.TXT DV=C  
;  
¥AZFGET FLID=JYUCHUF AKSCD=AZSYSTEM  
OUTFILE=(RECV.JYUCHUF PUBLIC SIZE=3 INCRSZ=1  
RECSIZE=800 BLOCKSZ=32000 RECFORM=FB)  
;
```

これは、「¥AZRECV」を使用して集信要求を発行し、さらに「¥AZFGET」にて集信したデータを順編成ファイルに抽出している例です。「¥AZRECV」を実行すると自動的にFTPC制御JOBが起動され、P C側の「C:¥FTP¥SEND¥JYUCHUF.TXT」というファイルのデータがホストに集信されます。

又本例では「WAIT=YES」の指定を行っているので、集信が終了するまで「¥AZRECV」のJOBステップで待機し、集信が正常終了した時点で次の「¥AZFGET」が実行されます。(集信が失敗した場合基本的には「¥AZRECV」にて異常終了します)

もちろん「¥AZFGET」にてプラグイン機能を利用すれば、区切り文字付テキスト形式の集信データを固定長形式に変換することも可能です。

上記例の他にも、一旦「¥AZFSET」で登録したデータに対して別タイミングで配信要求を発行したり、「¥AZRECV」を「WAIT=NO」(集信終了を待機しないモード)で実行し転送終了後に集信データを抽出する別JOBを起動したり、1回の転送要求発行処理(「¥AZRECV」や「¥AZSEND」)にて、コマンドファイルを用いて複数の転送要求を発行したりすることが可能です。

c. 画面からの転送要求発行

送信(P C → ホスト)要求の発行例

AX30A0A ファイルの送信要求を発行しますか?		97-05-14 23:18:05
=> Y		
0: 表示	S: 送信開始指示	7: 操作説明 8: 前画面 9: 終了
●ホスト側ファイル情報		
宛先加入者	AZSYSTEM	A Z I Aホスト側業務一般
ファイルID	JYUDTF	
↑↑↑		
加入者コード	KAIKATSU2	A z i a ' n T r a n s f e rデモ加入者
コメント		
●端末側ファイル情報		
データセット名	/FTP/SEND/JYUDTF.TXT	
デバイス	C (0~3:D0~D3 4~5:F0~F2 A~Z:DRIVEA~Z)	
媒体交換	N (Y:有り N:無し)	
●送信時属性情報		
オプション		
処理実行端末 KOYAMA (省略すると当端末より送信します)		
アタチ権ID		
上記ファイルの送信要求を発行しますか? Y/N		
R 入力可	TCP/IP	

このようにFTPサーバー端末を処理実行端末に指定することにより、FTPによる転送要求をVIS画面から指示することが可能です。もちろんこういった画面設定情報は予めカタログ情報として登録しておくことができます。

受信(ホスト→P C)要求の発行例

AX30A0A ファイルの受信要求を発行しますか?		97-05-14 23:27:50
=> Y		
0: 表示	G: 受信開始指示	7: 操作説明 8: 前画面 9: 終了
●ホスト側ファイル情報		
発生源加入者	AZSYSTEM	A Z I Aホスト側業務一般
ファイルID	HINMST	商品マスターデータ
コメント		
↓↓↓		
加入者コード	EIGY001	第一営業部
受信範囲	A (P:未受信のデータのみ受信する A:受信済データも受信する)	
受信後処置	Y (Y:受信済にする N:受信済にはしない)	
●端末側ファイル情報		
データセット名	/FTP/SLFILE.TXT	
デバイス	C (0~3:D0~D3 4~7:F0~F2 A~Z:DRIVEA~Z)	
出力モード	C (0:置換 A:追加 N:新規作成 C:作成OR置換 E:作成OR追加)	
データ長	(出力モード=N,C,E時に作成ファイルのデータ長を特定したい時指定)	
媒体容量(KB)	(この値分受信すると媒体交換待ちになります)	
●受信時属性情報		
オプション		
処理実行端末 KOYAMA (省略すると当端末にて受信します)		
アタチ権ID		
上記ファイルの受信要求を発行しますか? Y/N		
R 入力可	TCP/IP	

受信要求の場合も、FTPサーバー端末を処理実行端末に指定することにより、FTPによる転送要求をVIS画面から指示することが可能です。

受信の場合はカタログ情報の他、「受信/印刷対象ファイル検索&操作」画面からの「G」コマンドによる選択受信時も処理実行端末の指定にてFTPによる転送要求を指示出来ます。

ETOS端末との転送と同様に、「受信/印刷対象ファイル検索&操作」や「ファイル別明細状況検索」画面等から、転送状況を確認することが出来ます。

PAGE:7

4. 使用条件等

OS : ACOS-4 「XVP」3.1以上又は「XVP/PX」
PP等 : VIS及びRIQS (V1又はV2),UXNET v2がインストールされている事。

Azia'n Transfer R2.0

製造元 (有)Soft And Soul

tel: (03)3370-7051

fax: (03)3320-0950

e-mail: azian@softandsoul.co.jp

Azia'n Transferは、株式会社Imagicaシステムズ及び
有限会社ソフト・アンド・ソウル の登録商標(申請中)です。
本書に記載された社名・商品名は各社の登録商標・商標です。